

## 1 題材について

対 象 学 年	小学校 第6学年
学 習 指 導 要 領	第5学年及び第6学年の内容 A表現(2)イ(3)イ(4)ア B鑑賞(1)イ
題 材 名	音楽の特徴を感じて (全9時間) 【教材名】 表現教材:「越天楽今様」「ラバースコンチェルト」 鑑賞教材:「春の海」「アジアの音楽」
題 材 目 標	日本や諸外国のいろいろな音楽に触れて、それぞれの音楽がもつ曲想の違いや独特の味わいを感じ取り、旋律やリズム、響きの特徴を生かして、奏法や音色、音量のバランスを工夫して表現することができる。
配 慮 事 項	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 題材指導計画作成上の工夫(教材選択、教材配列、教材の時間配分等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「旋律の味わい」「音色の変化や響き」「拍子によって生じるリズム」を中心に音楽の特徴を感じ取ることができるよう、1つ1つの楽曲がもっている気分や雰囲気などの違いが何によって生じているかに関心をもたせる。そして、その特徴を生かして表現できるようにする。そのために、感想交流を大切に、感想を価値付けるなかで音楽の諸要素と関連付け、焦点的にもう一度聴いたりしながら音楽の特徴に気付くことができるようにする。</li> <li>・これまでの学習を生かすことのできる「ラバースコンチェルト」から入る。ここでは旋律の特徴をパートごとに観察し、それぞれの感じの違いをとらえその表現にふさわしい楽器を選択し、組み合わせやバランスを工夫していく活動を位置付ける。そうした学習をした後に、日本の音楽と出会うことによって、既習曲と比べて感じ取ることができ、独特の旋律の味わいや楽器の音色の響きなど、日本の音楽の特徴やよさをより味わうことができると考える。そして、楽器のルーツを探っていくことにより、日本とアジア諸国の音楽との関連に気付かせていきたいと考えている。</li> </ul> <p>単位時間における工夫(音楽活動の基礎的な能力を培う指導・援助等))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雅楽の演奏を聴き、自分たちの演奏と聴き比べることによって、より雅楽の響きに近づけたいという願いを高める。そして、教師の具体的な演奏(奏法の違いによる音色や雰囲気の違い)の違いを感じ取ることによって、練習に見通しがもてるようにする。</li> <li>・パートごとの練習の時間を確保し、音色にこだわることができるよう練習場所の拡大を図る。留守家庭教室、音楽室、音楽準備室の3か所を考えている。必要に応じて雅楽の演奏を聴くことができるコーナーも設置しておく。</li> <li>・他パートと聴き合ったり、合わせたりする姿を価値付け、主体的に仲間とかかわりながら表現を高めていくことができるようにする。その際、「本物の雅楽の響きらしい」という観点から聴き合うよう方向付け、指導援助をしていく。</li> </ul>
参 考 資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感じる感じるカード</li> <li>・学習カード(1~3)</li> <li>・雅楽なるほど ザ カード</li> </ul>

2 題材の評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
歌唱	.	.		
器楽				
創作	.	.	.	
鑑賞				
内容のまとめりごとの評価規準	<p>【器楽】 独奏や合奏、小アンサンブルや重奏などの興味ある表現形態を選択して器楽表現を楽しみ楽器で表現する喜びを味わっている。</p> <p>自分自身の表現意図を明確にもとうとしたり、集団で協力しながら合奏などの器楽表現の仕方を工夫しようとしていたりしている。</p> <p>【鑑賞】 歌曲、室内楽の音楽、箏や尺八を含めた我が国の音楽諸外国に伝わる音楽など、いろいろな種類の音楽に関心をもって聴こうとしている。</p>	<p>【器楽】 楽器の音が重なって生み出される響きや楽器のもつ固有の音色や音域、音量や速度の変化などに気付いて、器楽表現の喜びや豊かな響きの音色を求めて演奏を工夫している。</p> <p>【鑑賞】 箏や尺八を含めた我が国の音楽、諸外国に伝わる音楽など、いろいろな種類の音楽を聴いて、それぞれの音楽の美しさや特徴を感じ取っている。</p>	<p>【歌唱】 課題意識をもって範唱や範奏を聴きリズム、旋律、強弱、速度、音色、和音などに気を付けたり、それらの相互のかかわりをとらえたりして、豊かな表現をめざして歌っている。</p> <p>【器楽】 合奏、楽器による小アンサンブルなど、多様な表現形態の中で、美しく響き合う音を探りながら演奏している。</p> <p>リズム、旋律、強弱、速度、音色、和音や和声などの要素を感じ取って演奏したり、それらの相互のかかわりをとらえて演奏したり、身体表現したりしている。</p>	<p>【鑑賞】 楽曲を特徴付けているリズム、旋律、強弱、速度、音色、和声、調などの要素が有機的に関連し合い、曲想と深く結び付きながら楽曲全体の美しさを生み出していることを感じ取って聴く。</p>
題材の評価規準	<p>我が国の音楽、諸外国に伝わる音楽など、いろいろな音楽に関心を持ち、友達と協力しながら表現の仕方を工夫しようとしている。</p>	<p>音が重なって生み出される響きや楽器のもつ固有の音色や音量、速度の変化などに気付いて、曲想に合った楽器を選択したり、演奏の仕方を工夫したりしている。</p>	<p>リズム、旋律、速度、音色、和音など相互のかかわりをとらえ、旋律や音色の特徴を生かして音量のバランスに気を付けて演奏している。</p>	<p>楽曲を特徴付けているリズム、旋律、速度、音色などの要素と曲想とのかかわりに気を付けて聴き曲全体の美しさを味わって聴いている。</p>

<p>単位時間における具体の評価規準</p>	<p>様々な旋律楽器や打楽器に興味・関心をもち、それの中からパートの旋律を演奏するのにふさわしい楽器を選んで演奏することを楽しんでいる。</p> <p>箏や尺八の音色に親しみをもち、わが国の音楽に関心をもち、聴こうとしている。</p> <p>近隣諸国の音楽や楽器に興味をもち、それぞれの特徴を知ろうとしている。</p>	<p>雅楽の優雅で儼かな雰囲気を感じて、一音一音ていねいに演奏している。</p> <p>諸外国に伝わる音楽を聴いて、リズムや旋律、音色、響きなど、それぞれの音楽の美しさや特徴を感じ取っている。</p>	<p>主旋律が生きるために、パート間のバランスを聴き取り、人数やボリューム、楽器の組み合わせを加減して、美しく響き合う音を探りながら演奏している。</p> <p>日本の音楽の旋律や楽器の響きを感じて、一音一音ていねいにつないで歌っている。</p> <p>雅楽のイメージをもち、優雅で儼かな雰囲気を出すために、音色や速度奏法を工夫し、息づかいをそろえて演奏している。</p>	<p>多様な演奏形態の音楽に親しみ、音色の異なった様々な楽器がかかり合ったり溶け合ったりして生まれる多彩な響きの美しさを感じ取って聴いている。</p>
------------------------	---	--	--	---

### 3 指導と評価の計画（全9時間）

時	教材	ねらい	学 習 活 動	評価規準	評価方法	指導・援助
1	ラバースコンチエルト	<p>各パートの旋律やリズムの特徴を生かし、その役割にふさわしい楽器を選んぶことができる。</p>	<p>範奏CDを聴き、それぞれのパートの楽器や音色の特徴、重なり合った響きを感じ取る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>～それぞれのパートに合う楽器を選んで、演奏できるようにしよう。</p> </div> <p>教師の例示を聴く。</p>			<p>各パートを取り出して聴かせる。</p> <p>教師の例示（同じ旋律をいろいろな楽器で演奏する）によってそのパートにふさわしい楽器を感じ取ることができるようにする。</p>

		<p>いろいろな楽器を試しながら、自分のパートに合う楽器を選択し練習する。</p> <p>ア - 様々な旋律楽器や打楽器に興味・関心を持ち、それらの中からパートの旋律を演奏するのにふさわしい楽器を選んで演奏することを楽しんでいる。</p> <p>観察 ・いろいろな楽器で音色を試しながら楽器を選択し、練習している姿から評価する。</p> <p>パートの旋律に合わない楽器を選択した児童に対して、教師が範奏し、この楽器でよいかどうか聴かせ気付けさせる。</p>
		<p>本時の振り返りをする。</p>
2	<p>楽器の組み合わせを工夫して、音の重なり合う美しい響きをつくることができる。</p>	<p>1つのグループの例示演奏を聴き、感想を交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>楽器の組み合わせや音量のバランスを工夫して、美しい響きの演奏にしよう。</p> </div> <p>レベル表を作り練習に見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>レベル1 正しく レベル2 音色 レベル3 レガート奏 レベル4 拍をそろえる レベル5 音量のバランス (主旋律が生きる) レベル6 強弱 気持ち</p> </div> <p>レベル表に従ってグループごとに練習を進める。</p> <p>ウ - 主旋律が生きるために、パート間のバランスを聴き取り、人数やボリューム、楽器の組合せを加減して、美しく響き合う音を探りながら演奏している。</p> <p>観察 ・グループを巡回し、重なり合う美しい響きにこだわり、自分たちの演奏に耳を傾けて自分の考えを話す発言の内容や、演奏する姿から評価する。</p> <p>楽器の組合せ方や音量のバランスを聴くよう観点を明確にする。</p> <p>グループを巡回し、楽譜通り演奏することに抵抗のある児童には部分的に練習するよう助言したり模奏させたりする。</p>
		<p>中間発表会をし、お互いの演奏を交流する。</p> <p>本時の振り返りをする。</p>

3	<p>いろいろな楽器のを組み合わせの演奏を聴き合い、音の重なり合う響きを味わうことができる。</p>	<p>グループごとに前時の反省を生かし、練習する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>それぞれのグループの演奏を聴き、それぞれの楽器が重なり合う音の響きを味わおう。</p> </div> <p>グループごとに工夫したところや聴いてほしいところを言ってから演奏する。</p> <p>感想を交流する。</p> <p>本時の振り返りをする。</p>	<p>エ - 多様な演奏に親しみ、音色の異なった様々な楽器がかかり合ったり溶け合ったりして生まれる多彩な響きの美しさを感じ取って聴く。</p>	<p>学習カード 観察 ・それぞれのグループの演奏を聴き、重なり合う響きについて、カードに記入した内容や感想交流時の発言の内容から評価する。</p>	<p>聴く観点を明確にして聴かせる。 ・拍はそろっているか。 ・パート間のバランスはよいか。 ・表現の工夫やよいところはどこか。 上記の観点から、感想の内容や各グループの演奏を評価する。</p>
4	<p>春の海 箏や尺八の音色の特徴を味わい、曲の構成や曲想の変化を感じ取ることができる。</p>	<p>提示された箏や尺八を触ったり、音を出したりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>春の海の様子を頭のテレビに映して聴こう。</p> </div> <p>鑑賞曲「春の海」を聴く。 ・箏や尺八の音色について感じたことを交流する。</p> <p>V T Rを鑑賞する。</p> <p>観点を明確にし、もう一度鑑賞する。 ・季節や場所、情景などを想像しながら聴き、音楽カードに記述する。</p> <p>本時の振り返りをする。</p>	<p>ア - 箏や尺八の音色に興味をもち、わが国の音楽に関心をもって聴こうとしている。</p>	<p>学習カード 観察 ・箏や尺八についての記入内容や発言内容から評価する。</p>	<p>箏や尺八を準備し、児童が体験できるようにする。</p> <p>曲名を伏せておき、体験した楽器の音色に着目して聴かせるようにする。</p> <p>曲の感じや楽器の響きから情景を想像し、自分なりに題名をつけるように働きかける。</p>

5	越天楽今様	<p>日本の伝統的な音楽の旋律の感じや響きを味わいながら聴き、歌詞の内容を理解して歌うことができる。</p>	<p>範唱CDを聴き、感想を交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>今まで習ってきた曲との違いを見つけ、歌詞を覚えて歌えるようにしよう。</p> </div> <p>観点を明確にし、もう一度聴く。</p> <p>歌詞を読み、内容を理解する。</p> <p>歌詞を覚えて歌えるようコーナーを選択しながら繰り返し練習する。</p> <p>音程を確かめながら、フレーズのまとまりを感じて歌う。</p> <p>本時の振返りをする。</p>	<p>ウ - 日本音楽の旋律や楽器の響きを感じて、一音一音ていねいにつないで歌っている。</p>	<p>観察 ・優雅でゆったりとした雰囲気を出そうとゆっくりとしたテンポでいねいに歌う姿から評価する。</p>	<p>直感的な感想を価値付け、なぜ昔風な感じがするのかと投げかけることによって、旋律やリズムの特徴に気付かせるようにする。</p> <p>コーナーを設置し、自己評価しながら段階的にめあてに到達できるようにする。</p>
6		<p>使われている楽器の音色の響きを味わい、雅楽の雰囲気を感じ取って楽器を選択し、演奏できる。</p>	<p>雅楽「越天楽」のVTRを視聴し、雅楽に使われている楽器や、その音色を味わう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>身近な楽器を使って、一音一音ていねいに「越天楽今様」を演奏しよう。</p> </div> <p>雅楽の雰囲気に合う楽器を選択し、練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・龍笛...リコーダー</li> <li>・笙...鍵盤ハーモニカ</li> <li>・釣太鼓...和太鼓</li> </ul> <p>パートごとに集まり、正しい音程で演奏できるようにする。</p>	<p>イ - 雅楽の優雅で厳かな雰囲気を感じて、雰囲気に合う楽器を選択し、一音一音ていねいに演奏している。</p>	<p>感想の内容 観察 ・使われている楽器の音色に合う楽器をいろいろ音を試しながら選択したり、一音一音ていねいに演奏したりする姿から評価する。</p>	<p>一つ一つの楽器の音色に着目して聴かせる。</p> <p>楽器の音色を聴きながら、奏法を工夫したり、楽器をかえたりする姿を価値付ける。</p> <p>音の強さや奏法によっても音色が変わることをおさえる。</p> <p>パートを巡回し、つまずいているところを共に演奏する。</p>

		<p>パートごとの演奏を聴き合う。</p> <p>本時の振り返りをする。</p>			
7	本時	<p>優雅で厳かな雅楽の雰囲気を出すためには、音色や奏法を工夫するとよいことに気付き、柔らかい音色やゆったりとしたテンポで、息づかいをそろえて演奏することができる。</p> <p>雅楽「越天楽」(VTR)を鑑賞し、自分たちの演奏と比べる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>奏法を工夫し、本物の雅楽のような響きの演奏にしよう。</p> </div> <p>教師の例示演奏を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リコーダー</li> <li>・鍵盤ハーモニカ</li> </ul> <p>パートごとに練習する。</p> <p>ウ - 雅楽の優雅で厳かな雰囲気を感じ取り、柔らかい音色や音の出し方、音のつながりに気を付けて演奏している。</p> <p>観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パートを巡回し、雅楽で使われていた楽器の音色をイメージしながら、柔らかい音色や音の出し方、音のつながりを意識して演奏している姿や表現から評価する。</li> </ul> <p>歌、リコーダー、鍵盤ハーモニカ、和太鼓と合わせて合奏する。</p> <p>息づかいをそろえ、お互いの音色を聴き合って演奏する。</p> <p>本時の振り返りをする。</p>			<p>比較演奏によって、響きや奏法の違いに気付かせる。</p> <p>奏法の工夫の仕方を理解させ、試し活動を位置付ける。</p> <p>パートごとに巡回し、個別指導をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価、相互評価に対して教師が的確な評価をするようにする。</li> <li>・比較演奏によってより雅楽の響きに近い奏法に気付き、具体的に奏法を理解できるようにする。</li> </ul> <p>技能的な面でつまずきのある児童に対しては教師が共に練習する。</p>

8	アジアの音楽	<p>アジアの民族音楽に触れ、リズムや旋律、音色、響きなど、それぞれがもっている独特の味わいを感じ取って聴くことができる。</p>	<p>トルコの民族音楽「メヘテルハーネ」を聴き、感想を交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>アジア諸国の民族音楽を聴き、アジアの国々の様子を想像しよう。</p> </div> <p>写真資料から演奏している様子を想像し、楽器の音色やリズムの特徴について感じたことを学習カードに記述する。</p> <p>「アリラン」を歌う。</p> <p>歌ってみた感想を交流し合う。</p> <p>本時の振り返りをする。</p>	<p>イ - 諸外国に伝わる音楽を聴いて、リズムや旋律、音色、響きなど、それぞれの音楽の美しさや特徴を感じ取っている。</p>	<p>観察 ・興味をもって、身体表現しながら鑑賞する姿や音楽についての感想の記述内容や発言内容から評価する。</p>	<p>写真や映像資料などを準備し視覚を通して知ることができるようにする。</p> <p>聴く観点を具体的に示すようにする。 ・リズム ・速度 ・音色 ・曲の構成</p>
9		<p>近隣諸国の音楽や楽器、日本の音楽とのかかわりなどについて興味をもって調べることができる。</p>	<p>アジア諸国の楽器の写真から、気付いたことを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>アジアの音楽や楽器の特徴を知ろう。</p> </div> <p>調べたい内容を決め、資料を選択して調べる。 ・アジア諸国のいろいろな音楽 ・アジアの音楽に使われている楽器 ・1つの国の音楽や楽器 ・生活と音楽 ・日本とのかかわり</p> <p>笙のルーツについてのVTRを観て、日本の音楽とアジアの音楽とのかかわりについて知る。 本時の振り返りをする。</p>	<p>ア - 近隣諸国の音楽や楽器に興味をもち、それぞれの特徴を知ろうとしている。</p>	<p>観察 ・課題解決していくために資料を選択活用している姿や、学習カードへの記述の内容から評価する。</p>	<p>調べたいことが決まらない児童に対しては、教師の例示から選択できるようにしておく。 視聴覚資料や読み物資料、本など、児童が必要に応じて活用できるように、資料コーナーを設置しておく。</p>



4 単位時間の授業展開

(1) 本時のねらい

優雅で厳かな雅楽の雰囲気を出すためには、音色や奏法を工夫するとよいことに気付き、柔らかい音色で、息づかいをそろえ、一音一音ていねいにつないで演奏することができる。

(2) 本時の位置

7 / 9時

(3) 展開案

過程	学 習 活 動	評価について	指導・援助
	1 雅楽「越天楽」を聴く。		
	奏法を工夫して、本物の雅楽のような響きの演奏にしよう。		
つかむ	2 教師の範奏を聴き、感想を交流する。 ・2種類の奏法を示し、奏法や音色の違いを見つける。 〔リコーダー〕 ア：タンギングをしながらレガート奏 イ：タンギングなしの打ち指式 〔鍵盤ハーモニカ〕 出だしを弱くしだんだん膨らませる。(ポワーン)		比較演奏によって、響きや奏法の違いに気付かせ、奏法の工夫の仕方を理解し、試し活動を位置付けて練習に見通しがもてるようにする。  本物の雅楽の響きを「ポワーンとした感じ」という言葉でイメージをもたせる。
/	3 一人一人が自分の楽器で教師の範奏をもとにしながら演奏する。(試しの活動)		
たかめる	4 パート別に分かれ、見合い聴き合いながら練習する。  ・それぞれのパートコーナーに移動し、互いに聴き合い、感想を交流しながら練習する。	ウ - 優雅で厳かな雰囲気を感じ取り、柔らかい音色や音の出し方、音のつながりに気を付けて演奏している。  ・歌 出だしの音を弱くして、すばやく息継ぎをしながら、一音一音ていねいにつないで歌っている。  ・リコーダー(龍笛) 息を柔らかく吹き込みながら、タンギングをしないで指で音をきって演奏している。	パートごとに巡回し個別指導をする。  ・自己評価、相互評価に対して教師が的確な評価をするようにする。  ・「ポワーンとした感じ」を観点に自分たちの演奏を振り返らせ、出だしの入り方やフレーズの終わり方について考えさせる。  ・教師が比較演奏したり、範奏したりすることによって、より雅楽の響きに近い奏法に気付かせ、真似してできるようにする。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">/</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ま と め る</p>	<p>5 パートごとに発表し、感想を交流する。 ・工夫した点や聴いてほしいことを言ってから発表する。</p> <p>6 全体で合わせて演奏する。 ・聴き役を決め、全体の響きを聴きながら感想を交流しより表現を高めていく。</p> <p>7 本時の振り返りをする。 ・学習プリントに自己評価を記入する。</p>	<p>・鍵盤ハーモニカ（笙） 出だしを弱く息を吹き込み、和音をつなげて演奏している。</p> <p>・長胴太鼓（楽太鼓） ・締太鼓（鞆鼓） ・シンバル（鉦鼓） バチの種類をかえたり、手で持って響きをかえたりするなど、音色に気を付けて演奏している。</p> <p style="text-align: center;">観察</p> <p>パートごとに巡回し、雅楽で使われていた楽器の音色をイメージしながら、柔らかい音色や音の出し方、音のつながりを意識して演奏している姿や表現から評価する。</p>	<p>・教師が比較演奏したり、範奏したりすることによって、息の吹き込み方に気付かせる。</p> <p>・音色にこだわり、バチや奏法を工夫する姿を価値付け、願いを聴きながら、アドバイスする。（音の強さ、VTRを観ることなど）</p>
---	---	--	---

## 5 評価の実際と個に応じた指導事例

### (1) 本時重点的に取り上げた評価規準

評価規準<ウー >

雅楽の優雅で厳かな雰囲気を感じ取り、柔らかい音色や音の出し方、音のつながりに気を付けて演奏している。

### (2) 評価の実際

評価の方法

パート別練習の様子を観察

・パートを巡回し、雅楽で使われていた楽器の音色をイメージしながら、柔らかい音色、音の出し方、音のつながりを意識して演奏している姿や表現から評価した。

判断の事例

「努力を要する」状況(C)と判断

・雅楽で使われていた楽器のイメージはあるが、どのように演奏すればよいか見通すことができず、繰り返し練習しているだけの児童をCと判断した。

- ・歌 柔らかい声で歌おうとするが、出だしを意識しないで、単調な歌い方をしている児童
- ・リコーダー タンギングをしないで吹くことはできるが、指で打つことができず、音がつながってしまう児童
- ・鍵盤ハーモニカ 出だしを意識せず、和音を十分伸ばすことができないために、和音かとぎれとぎれになってしまう児童
- ・和太鼓・鉦鼓 音の強さや音色にこだわらずに、繰り返し打っているだけの児童

「十分満足できる」状況(A)と判断

・本物の雅楽の響き「ポワーンとした感じ」「柔らかい音色」にこだわって自分の表現を振り返り、フレーズの始めや終わりの音の出し方、息の吹き込み方等を工夫して演奏している児童をAとした。

- ・歌 「ポワーンとした感じ」を意識し、歌い出しを弱くし、フレーズの終わりの伸ばす音を膨らませるようにして歌っている児童
- ・リコーダー 息を柔らかく吹き込み、タンギングをしないで指で音を切って演奏し、フレーズのまとまりを感じ一音一音つないで演奏し、長く伸ばす音は膨らませるようにして演奏している児童
- ・鍵盤ハーモニカ 4小節を大きなまとまりでとらえ、8拍を十分に伸ばし、和音と和音をつないで演奏できる。さらに、はじめは息を弱く吹き込み、だんだん息を強くし、フレーズの真ん中を膨らませるように演奏している児童
- ・和太鼓・鉦鼓 常に自分の演奏している音色にこだわり、ばちをいろいろ替えたり、たたく強さや打つ場所を替えたりしながら、自分の願う音を見つけ、歌に合わせて、弱い音からだんだん音を強くして演奏している児童

### (3) 個に応じた指導の実際(Cと判断される状況への働きかけ)

各楽器ごとに練習場所が分かれていたので、児童の実態から、リコーダー 歌 鍵盤ハーモニカ 和太鼓・鉦鼓 の順で指導・援助を行った。本物の雅楽らしい「ポワーン」とした音のイメージに立ち返らず、何度も繰り返し演奏している児童に対しては、以下のよう

- ・歌 教師の比較例示( 柔らかい声でレガートに歌う。レガートに、歌い出しを弱くしだんだん膨らませて歌う。)を聴かせ、どちらが「ポワーンとした感じ」がするか問いかけた。そしてなぜそう感じたのか理由を聞いていきながら、2つの例示の歌い方の違いに気付かせてい

った。教師が隣で一緒に歌うことで、単調な歌い方が、歌い出しを意識し、ポワーンとした歌い方になっていった。

・リコーダー

教師がまず全体を通して範奏した。

はじめの2小節を、指の動きに注目させ、指で打ちかえていることに気付かせるよう、ゆっくり演奏した。

指の動きを解説しながらゆっくり範奏した。

始めの2小節を、教師の指の動きを見ながら一緒に練習した。

できたことを見届け、次の2小節、次の2小節というように演奏部分を多くしていった。

以上のように、少しずつ見届けながら進めていくことによって、指を打って音を切るコツをつかみ、2フレーズを終わったところからは、一人で進めていけるようになった。

・鍵盤ハーモニカ

息をたっぷり吸い、息を少しずつ出して吹くとよいことをアドバイスし、まず呼吸法だけ行い、次に音を出してやってみた。息つぎを意識して繰り返し練習し、和音をつないで吹くことができるようになった。次に8拍伸ばすなかで、小節の頭を弱くし、だんだん強くしていく演奏を聴かせ、だんだん吹き込む息を強くするとよいことをアドバイスした。何回も繰り返し練習し、笙の「ポワーンとした感じ」を意識し息の吹き込み方に注意して演奏できるようになった。

・和太鼓・鉦鼓

自分が生み出した音色をよく聴いて、バチを選択するとよいことをアドバイスした。教師も一緒に聴き、たたいた後に「どうだった?」と問いかけ、感想を聴いた。その後、教師の感想を話し、バチをかえてたたかせまた同じように問いかけた。このような指導・援助を繰り返すことで、音色にこだわるようになり、CDを何度も聴く姿が見られた。そして、雅楽の音色を意識して演奏できるようになった。